

取組2 心ゆたかな若者の育成

取組の評価 2.9 一部に改善を要する

＜取組2の基本方針＞

- 1 自ら考える力をはぐくむ教育の推進
- 2 ゆたかな心を育む教育の推進
- 3 たくまい身体を育む教育の推進
- 4 安心して快適に学べる教育環境の充実
- 5 社会全体が連携した若者育成の推進
- 6 農を活かした若者づくり

【取組の目的】 知性にあふれ、ゆたかな感性と未来を拓く活力に満ちた若者を育みます。

『取組』に係る社会の動向と本市の現状

1 社会の動向

- ◎ 少子化や核家族化の進行、都市化や情報化の進展などにより、人間関係や地域間でのつながりの希薄化が進むなど、子どもや家庭を取り巻く環境は日々大きく変化している。また、最近では急激な景気の悪化の影響なども受け、若者が将来への夢や希望を持ちにくい時代になっている。
- ◎ 平成23年度からの新しい学習指導要領では、特に小学校低学年において、あいさつ等の基本的な生活習慣、社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断し、「人間としてしてはならないことをしない」などの指導を重視するなど、道徳教育について充実が図られている。
- ◎ 東日本大震災を受けて、防災教育の重要性について議論が深まっている。子どもたちの防災意識高揚に加えて、発災時に地域のために活躍できる若者の育成も注目されている。

2 本市の現状（主な取組）

- ◎ 平成22年度から着手した「農を活かした授業づくり事業」では、平成24年度に小学校12校全てで事業実施となり、学校教育の中で農に触れる機会を得ることにより、徳・知・体のバランスのとれた学習・成長に役立つとともに、地域の方々とふれあう好機会となっている。
- ◎ 平成23年度から、専門職が保健・福祉・教育の分野で連携して支援するネットワークづくりを進める「子ども発達支援トータルサポート事業」を展開。発達障がいをもつ子どもの早期発見・早期支援につなげる活動をしている。
- ◎ 「学力向上対策事業」など、子ども一人ひとりの「わかる」を大切に授業の展開により、児童・生徒の学習意欲を高め、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、考える力を大きく伸ばしている。
- ◎ 平成25年度から、教育支援事業「レインボープラン」を展開し、きめ細やかな指導体制の拡充や心のケア・相談支援体制の充実等を図り、子ども個々の多様化する問題に対応し、一人ひとりのニーズに応じた教育を推進している。
- ◎ 子どもたちの教育環境に関して、防災・減災機能を高めるために各種の施設整備について、優先的に進めている。

『取組指標』の分析と評価結果

1 取組指標の評価 【※ 実績値は、各年度末における最新数値】 評価結果の平均値(A) 1.6

＜評価基準＞ 4:達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 ≥ 0% 3:達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 < 0% 2:達成率 < 100%・前年比伸び率 ≥ 0% 1:達成率 < 100%・前年比伸び率 < 0%

番号	指標名	項目	現状値(計画)	H22	H23	H24	H25	H26	H27
1	基礎学力(自ら考える力を含む)が身についている児童・生徒の割合【%】(小5、中2)	目標値	—	90.8	90.8	91.1	91.4	91.7	92.0
		実績値	90.5	89.8	84.0(小5)	88.0(小5)			
		達成率 伸び率	— 小5 — 小5	98.8 ▲ 0.7	92.5 ▲ 6.4	96.5 4.7			
		評価	— (小5)	1	1	2			
2	基礎体力が身につけている児童・生徒の割合【%】(小6、中3)	目標値	—	85.0	85.0	86.0	87.0	88.0	89.0
		実績値	84.4	59.4	50.0	50.0			
		達成率 伸び率	— —	69.8 ▲ 29.6	58.8 ▲ 15.8	58.1 0.0			
		評価	—	1	1	2			
3	地域活動やボランティア活動に参加している児童・生徒の割合【%】(小6、中3)	目標値	—	78.0	78.0	79.0	81.0	83.0	85.0
		実績値	77.2	75.8	75.7	75.3			
		達成率 伸び率	— —	97.1 ▲ 1.8	97.0 ▲ 0.1	95.3 ▲ 0.5			
		評価	—	1	1	1			
4	自ら進んで読書活動に取り組んでいる児童・生徒の割合【%】(小6、中3)	目標値	—	30.0	30.0	35.0	40.0	45.0	50.0
		実績値	21.0	24.2	23.5	27.6			
		達成率 伸び率	— —	80.6 15.2	78.3 ▲ 2.8	78.8 17.4			
		評価	—	2	1	2			

【指標に影響を与えた主な要因】

- ◎ 基礎学力が身につけている割合については、言語活動を大切にし、思考力の向上を目指す授業に向けた研修の充実により、目標値は達成できなかったものの、特に小学生について高い数値となった。
- ◎ 基礎体力が身につけている割合については、中学生が全国平均を上回る種目が半数以上あるのに対し、小学生は全国平均を上回る種目が少ないため、全体として、低い実績値となった。

2 指標で表すことが困難な成果

- ◎ 学校間の活発な授業公開により、教員の教え方の質が向上。「わかる授業づくり」がなされることにより、児童・生徒が「自ら考える力を育む教育」が進められている。
- ◎ 「農を活かした授業づくり」などで行われる「地域人材との関わり」により、世代を超えての人や地域とのつながりが強化されてきている。

『主要事業』に係る事業評価表の評価結果

1 主要事業の評価

番号	主要事業名	H24 事業費【千円】	事業評価表の評価結果		
			有効性	効率性	廃止の影響
1	(小学校・中学校)特別支援学級等支援員事業	52,082	4	4	4
2	(児童・生徒)健康診断事業	11,584	3	3	4
3	外国人児童生徒サポート事業	13,237	4	4	4
4	学校図書館サポート事業	3,779	4	4	4
5	学区再編に伴う支援事業	2,074	4	4	4
6	要保護・準要保護(児童・生徒)就学援助事業	27,279	4	3	4
7	(児童・生徒)特別支援教育就学奨励事業	4,153	4	3	4
8	(小学校・中学校)特別支援教育推進事業	127	4	4	4
9	(小学校・中学校)外国人生徒支援事業	54	4	4	4
10	(小学校・中学校)読書活動推進事業	5,395	4	4	4
11	(小学校・中学校)市長称揚の会表彰事業	38	3	3	2
12	(小学校・中学校)情報教育推進事業	10,736	4	4	4
13	(小学校・中学校)元気な学校づくり推進事業補助金交付事業	6,160	4	4	4
14	(小学校・中学校)備品整備事業	8,791	4	4	4
15	小中連携学力向上対策事業	262	4	4	4
16	(小学校・中学校)人権教育推進事業	90	4	4	4
17	(小学校・中学校)ALT派遣事業	21,284	4	4	4
18	(小学校・中学校)防災教育推進事業	565	4	4	4
19	教育施設大規模改修事業	313,025	4	4	4
20	教育支援センター事業	2,100	4	4	4
21	農を活かした授業づくり事業	1,103	4	4	4
22					
23					
24					
25					
評価結果の平均値(B)		3.9	3.9	3.8	3.9

『 取 組 』 の 有 効 性 ・ 必 要 性 ・ 緊 急 性 の 評 価 結 果

1 取組の有効性等の評価 評価結果の平均値 (C) 3.3

番号	評価項目	H22	H23	H24	H25	H26	H27	コメント欄
1	有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	4	2	3				◎ 基礎学力に関する指標結果は、小学生は目標値に届かないまでも達成率は大きく伸びている。逆に、中学生は昨年度と比べ低下し、目標に届かなかった。また、基礎体力については、昨年度と同様の達成率であり、目標に届いていないため、小中連携して体力の向上に努めていく必要がある。 ◎ 指標だけで成果は計れないが、状況が悪化している案件については、長期的な視点からの改善の余地があると思われる。
2	必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	4	4				◎ 若者の育成にあたっては、徳・知・体がバランス良く育まれることが重要である。本取組のための各事業は、公教育及び心ゆたかな若者の育成に欠かせないものであり、その必要性及び、保護者や地域からの期待も高い。
3	緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	3	3				◎ 少子化や核家族化の進行、都市化や情報化などが進展する中、知識だけではなく、心のゆたかさを求める声は年々高まっている。 ◎ この分野に求められる緊急性は一過性のものではなく、長期的なビジョンに基づき計画的に事業を進めるべきという意味で各年度の緊急性が高い。

『 取 組 』 の 総 合 評 価 と 今 後 の 展 開 方 向

1 総合評価 <評価基準> 4～3.6:順調 3.5～3:概ね順調 2.9～2:一部に改善を要する 1.9～1:全体的に改善を要する

取組の評価			コメント欄
2.9	一部に改善を要する		◎ 読書活動の推進については、学校により既に大きな成果が表れている。読書に限らず大切なことは、心ゆたかな若者の育成につながる「良い習慣」を身につけさせることであるので、今後も、望ましい習慣の形成につながる事業の積極的な展開が求められる。 ◎ 指標として掲げている「基礎学力・基礎体力が身に付いている児童・生徒の割合」は、目標値に達していない項目も多く、その要因と対策を具体的に検討する必要がある。 ◎ 若者が将来への夢や希望を持ちにくくなったと言われる時代であるが、自信を持って未来に進んでいけるよう、ゆたかな心、知性、体力を兼ね備え、健やかに育つ教育環境の充実のために、自治体として「すべきこと」と「できること」を検討し、家庭や地域との連携を進めていきたい。 ◎ 市内の教育施設に関して、袋井市教育施設整備方針（平成24年度策定）に基づき、今後は大規模な改修を計画的に進めていく必要がある。
各評価結果の平均値			
取組指標の評価結果 (A)	主要事業の評価結果 (B)	有効性等の評価結果 (C)	
1.6	3.9	3.3	

2 取組の基本方針別 今後の展開方向 <展開方向> 拡充(順調) 拡充(改善必要) 継続推進 縮小

番号	取組の基本方針	H22	H23	H24	H25	H26	H27	今後の展開方向
1	自ら考える力を育む教育の推進	継続推進	拡充	拡充				子ども一人ひとりの「わかる」を大切にした授業の展開により、学ぶ喜びを感じ、主体的に学習する意識を引き続き向上させていく。自ら考える力である基礎学力を身につけた子どもの育成に努める。
2	ゆたかな心を育む教育の推進	継続推進	継続推進	継続推進				東日本大震災を教訓に、思いやり、助け合いについて、改めて考える必要がある。また、復興支援に関しては、小中学生など若い世代もボランティアに関心が高まっていると想像できるため、これを機に、ゆたかな心をはぐくむ教育の機会としていきたい。
3	たくましい身体を育む教育の推進	継続推進	継続推進	継続推進				運動意欲の向上や運動習慣の定着、食育を通じた望ましい生活習慣の定着への取り組みを継続して行うことにより、児童・生徒のたくましい身体を推進させ基礎体力を身につけた児童・生徒の割合の向上に努める。
4	安心して快適に学べる教育環境の充実	拡充	拡充	拡充				特別支援教育の推進にあたっては、「子ども支援室」の支援を効果的に活用することで、特別支援教育推進の体制づくりを進めていく。また、レインボープランを実施し、市内全校に教育支援の充実を図る。
5	社会全体が連携した若者育成の推進	継続推進	拡充	拡充				開かれた学校づくりを促進することにより、家庭・地域・学校の横の連携を強化していく。特に、防災教育に関しては、家庭、地域、行政の協力が欠かせないものであり、社会全体で「生きる力」を身につけた若者を育成していくことが急務である。
6	農を活かした若者づくり	拡充	継続推進	継続推進				平成22年度から段階的に実施校を増やして行われてきた「農を活かした授業づくり事業」は、平成24年度に12小学校全てでの実施となり、地域の方々との交流の機会として今後も継続していきたい。

【その他留意事項】

・たくましい身体を育む教育については、スポーツ・健康づくり施策の推進等と併せて、組織の横断的な連携を図りながら、推進していくことも必要である。